

原発事故発生時に備えた避難訓練について

須藤 有紀（みどり21）



原発事故発生時に住民が冷静に対処するため、必要な最低限の情報を知っておくことや訓練実施による経験を持つておくことは極めて重要であると考え質問する。

❶ 菊川市には要配慮者対策として、市内3か所に放射線防護施設が整備されている。施設を活用した避難訓練の実施について、実現の可能性は。

❷ 今年度、放射線防護施設に商業電源を接続する改修工事を実施する計画である。工事完了後に、市職員と地元防災代表者などと施設の確認や経路の確認、稼働訓練を予定している。また、和松会でも例年訓練を実施しており、市職員も参加し現状把握や情報交換をしていく。

❸ 出前講座のみでは受け取り手の意識によって情報格差が生じかねない。初期行動に関しては全住民が知っておくべき情報であると考えが、如何か。

❹ 市民に初期動作や避難方法を周知するため、これまで回覧文書

や危機管理ニュースで周知を行った。必要な避難が実行できるよう、今後関係機関との連携を図り様々な機会を捉え説明していく。

❶ 避難訓練による周知は。

❷ 地域防災訓練や防災活動の中で屋内退避の訓練を行う場合には、市職員も出向き、内容の検証等行っている。

❸ 情報提供と共に、住民の生命や安全を守る責任が市にあると思うが、想定される責任の範囲は。

❹ 市として市民の生命と財産を守る責務があると思っている。色々な訓練を含め、実効性を高めるための取組をしっかりと進めていきたい。



放射線防護の考え方

掛川浜岡御前崎バイパスの整備状況

織部 ひとみ（みどり21）



7月29日の早朝に発生した時間雨量80ミリの集中豪雨により、JR東海道線のアンダーの浸水、西方堀田地区ガード付近の道路の冠水そして吉田大東線の半済地区浸水・加茂白岩地区菊川西中学校南側の道路の冠水や浸水被害により東西の道路が一時通行困難となった。今後、起こりうる局地的豪雨災害等を考慮して、幹線道路へのアクセス道路の整備と掛川浜岡御前崎バイパス整備の重要性と事業の進捗状況について質問した。

❶ 掛川浜岡御前崎バイパスの南側高橋地区の事業進捗と完成時期は。また、西方地区における掛川市・県土木事務所との協議内容及び進捗状況は。アクセス道路である本所打上線の進捗状況は。

❷ 主要地方道掛川浜岡線バイパスは、掛川市、菊川市及び御前崎市を結ぶ主要な幹線道路であり東遠地区の発展を左右する最重要路線である。高橋地区において県・市合わせて1.7キロメートルの施行区間で県・市ともに同意が得

られていない地権者がおり、県と連携し、1日も早い供用開始を目指している。

西方区間については、掛川市・県袋井土木事務所等と協議を行い、令和3年1月にルート変更を伴う都市計画決定の変更を行った。整備時期は、本年度作成する都市計画道路整備プログラムの中で検討していく。

アクセス道路である本所打上線についても同様に、都市計画道路整備プログラムの中で検討していく。

